

長期休み時の 学習支援教室



山田助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

公益財団法人 鈴鹿国際交流協会 (SIFA)

〒513-0801 鈴鹿市神戸 1-17-5

TEL : 059-383-0724 FAX : 059-383-0639 E-mail : sifa@mecha.ne.jp

HP : <http://www.sifa.suzuka.mie.jp/>

Facebook : <https://www.facebook.com/sifa.suzuka>

社会課題

- ・外国につながる保護者は、日本の学校の経験がないため、読書感想文や自由研究等の宿題について子どもにアドバイスできず、提出できないことがある。
- ・外国につながる子どもたちや保護者の日本語力が充分でない為、宿題を全部終わらなくても仕方がないという感情が保護者・児童、教師にあった。



事業目標

- ・児童の長期休み時の宿題を伴走支援(マンツーマンあるいは、少人数指導)し、自信を持って次学期の学校生活へとつなげる。
- ・読書感想文、自由研究等特に外国につながる児童の家庭で支援が難しい課題に取り組み、終わることで自信をつける。
- ・近い年齢の子どもたちが集まって学習することで、勉強に対する嫌悪感を拭う。
- ・保護者からの問い合わせに随時答える事で、学校の課題や長期休みの過ごし方について理解を深める。

時期・場所・参加者数・支援者数

	時 期	場 所	参加者数(延べ)	支援者数
①夏休み	8月1日~8月30日の平日 (8/13-8/15を除く)9:30-11:30	鈴鹿カルチャーステーション	24名(235名)	19名
②冬休み	12月24日~12/26日、1月6日 9:30-11:30	飯野小学校	22名(67名)	13名
③春休み	3月26日、31日 9:30-11:30	鈴鹿カルチャーステーション	9名(14名)	5名

事業内容

オリエンテーション	出された宿題を子どもと確認。書き写す。
ワーク	まず自分でさせる。漢字の分からない部分は、選択式で例示。計算は、より基礎的な例を出して、それを解いてから取り組む。文章題特有の言葉等に気付けるように促す。
ポスター制作	ポスターの意味を確認。課題を選び、下書き。色塗りの確認(白いところを残さない、クレヨン絵の具をはじく特性があること、タンポの活用等)。
読書感想文	本を選ぶ。感想を聞いて簡条書きしていき、全体の構成を子どもとコミュニケーションをとりながら支援する。
自由研究	やりたいことがある子は、自分で進めていき、まとめや清書を支援する。 決まっていない子は、伝統産業(伊勢型紙)について伝統工芸士の話聞いてから実際に制作しまとめた。
書写	筆の持ち方や、課題の確認。お手本を作成。
書初め(冬)	書写の内容に加え、半切用紙の使用方法を確認。全学年3学期に改めて行うため、課題をあらかじめ把握。

1日の流れ

9:00~9:30	スタッフ打合せ 子どもの受付
9:30	あいさつ、担当分け
9:30~	一行日記、天気 学習タイム
10:20~10:30	休憩
10:30~	学習タイム 創作活動(低学年)
11:20~	片付け、あいさつ
11:30	解散
11:30~12:00	活動振り返り



参加者・ボランティアの声（抜粋）

児 童	<p>楽しかった。先生たちに手伝ってもらって色々覚えた。宿題が全部終わった。最初は行くのが嫌だったけど、行ってみたらすごく楽しくて好きになった。お家で勉強していたらすぐあきらめてしまうけど、ここで勉強できてうれしかった。割り算が分からなかったけど、ここで教えてもらえて解けるようになった。友達がたくさんできてうれしかった。これからも教室を開いてほしい。</p>
保護者	<p>こういう教室は大変ありがたい。これまでサポートできる部分はしていたが、まだ分からないことがたくさんある。 宿題を強制されないでできたことに感謝。勉強することで幸せに感じたら、子どもたちは覚えることが好きになると思う。 自由研究や習字が早く提出できて良かった。</p>
ボランティア	<p>保護者への説明会を開いた方が良い。 他市の取組や、ボランティアとしての関わりをさらに学びたい。 子どもたちは、自分を見てほしいと思っているので、ボランティアがさらに増えると良い。 習字や絵は、学校や外部の方へ依頼する方がよい。 休憩時間子どもたちと遊んで楽しかった。子どもとのコミュニケーションが楽しかった。 (高校生ボランティア)</p>

成果

- ・児 童 宿題を全部出せたことが自信につながったようです。何よりも勉強が楽しいと思って貰えたことが良かったです。ある子は、2学期以降勉強で分からないところがあると担任に聞きに行けるようになったようです。
夏休みに参加していた子どもは、冬休みの活動において学習支援の無い日も、自宅でもこつこつと学習に取り組んでおり、学習習慣が身に付いてきています。
- ・保護者 長期休み前に学校で説明された宿題について、再度確認できる場があったので安心してもらえました。子どもが学習会の事を話し、宿題が順調にできているのを見て親子の関係も良くなったと思います。
- ・ボランティア 外国人児童と関わる機会がこれまでほとんどなかった為、子どもたちから教わるのがたくさんありました。大人のボランティアが高校生ボラのお手本になりました。
ボランティア同士の繋がりもできました。
- ・行 政 本事業に対して市議会議員から市に一般質問があり、今後継続的な意見交換が必要とのことから教育支援課や市民対話課と会合を持つようになりました。
- ・社 会 メディアで取り上げられたことで、市民からボランティア参加の申し出がありました。

見えてきた課題

- ✓日本語の読み書きだけでなく、数の概念や計算・九九など基礎的な学習が定着していない児童が多い。
- ✓一行日記や生活チェック表、計算カード練習など宿題のやり方がわかっていない児童・保護者が多い。
- ✓保護者が毎日の送り迎えが難しいので、通えなくなった子がいた。
- ✓家庭の協力が必須なため、保護者に宿題の内容や教室活動についての説明会を開催することが必要。
- ✓平和学習や防災学習等、内容によっては、外国籍児童の家庭だけでは、取り組むことが難しいものがある。
学校へ伝えていくことが必要である。
- ✓子どもたちは、個々に得手・不得手があるため、学校との密な連携が不可欠である。
- ✓児童によりきめ細やかな対応をしていくため、ボランティアの育成が不可欠である。

活動風景



↑タンポを使ったポスターの塗り方



↑筆の持ち方から確認



↑伊勢型紙の作品作成



↑間違えたところを確認



↑おやつ&交流タイム

メディアへの掲載

外国籍の子もたちの宿題を応援
 2019年8月23日 09:55 三重テレビ放送

三重県内で、日本語指導が必要な外国人の児童生徒は、毎年増えています。5年間で300人以上増え、去年2000人を越えました。

この子どもたちの多くが、いま、直面しているのが夏休みの宿題です。

★三重テレビ 2019.8.23

NHK NEWS WEB
三重 NEWS WEB
外国籍の子どもを支援する教室
 03月31日 19時25分

外国籍の人たちも多く暮らす三重県鈴鹿市で、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため家庭での学習を余儀なくされている外国籍の子どもなどを支援する教室が開かれています。

この教室は鈴鹿市の国際交流協会が市内のレンタルスペースで開いています。

31日は市内の小学校に通っているブラジル国籍などの子どもたちあわせて8人が参加しました。

鈴鹿市では新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、公立の小中学校の中には夏休みの宿題をふだんより多く出しているところがあります。このため教室では夏休みに入った3月26日から自習が難しい外国籍の子どものための支援を始めています。

子どもたちは漢字ドリルや計算ドリルの問題を解いてボランティアに答え合わせしてもらったり、解けなかった問題を教えてもらったりしていました。ただし、感染を防ぐために子どもたちにはマスクを付けさせたり互いに離れて座らせているということで、教室の換気をこまめに行っているということです。母親がフィリピン人の8歳の女の子は「ここではみんなが教えてくれるから楽しいです」と話していました。

鈴鹿国際交流協会の川出篤平主任は「日本人家庭と違って子どもの自習が難しい家庭もあるので子どもたちが学習を継続できるよう支援したい」と話していました。

★NHKニュース8.28、3.31

宿題支援 高まる需要
夏休み 鈴鹿の外国籍児童

三重県鈴鹿市で、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、公立の小中学校の中には夏休みの宿題をふだんより多く出しているところがあります。このため教室では夏休みに入った3月26日から自習が難しい外国籍の子どものための支援を始めています。

子どもたちは漢字ドリルや計算ドリルの問題を解いてボランティアに答え合わせしてもらったり、解けなかった問題を教えてもらったりしていました。ただし、感染を防ぐために子どもたちにはマスクを付けさせたり互いに離れて座らせているということで、教室の換気をこまめに行っているということです。母親がフィリピン人の8歳の女の子は「ここではみんなが教えてくれるから楽しいです」と話していました。

鈴鹿国際交流協会の川出篤平主任は「日本人家庭と違って子どもの自習が難しい家庭もあるので子どもたちが学習を継続できるよう支援したい」と話していました。

★中日新聞 9.16

Special Thanks

- ・国際子育てサロンFun Fun Salon様 子どもたちの送迎、広報
- ・学習支援室 World Kids様 教材の貸出、ボランティアの協力
- ・コープ三重様 子どもたちへのおかし・ジュース等の提供

今後について

1年目の成果をもとに、課題として挙がってきた①「送迎の問題で教室に通えない子どもたち」が参加できる仕組みづくり、②保護者へのよりきめ細やかな情報発信の為の相談会の開催、③学校・教育委員会との連携、④高校生・大学生を中心とした若い世代のボランティアの育成について特に重点的に引き続き取り組んでまいります。ご協力いただける方は、お気軽に本協会までご連絡ください。